opusdei.org

## 年間第7週・火曜日 56 王の王である主

年間第7週・火曜日 56 王の王である主 — 王であるキリストの勝利を歌う詩編。 — 神を拒絶する世界。 — 神との父子(おやこ)関係。

2024/04/09

年間第7週・火曜日

56 王の王である主

— 王であるキリストの勝利を歌う詩 編。

- 一神を拒絶する世界。
- 一神との父子(おやこ)関係。

5 6. 1 王であるキリストの勝利を 歌う詩編。

何世紀もの間、詩編は神に感謝し、 賛美し、赦しを願うための、神の助 けを求める霊魂のチャンネル(手 段)でした。主ご自身は、この世で の生命の最後の瞬間に天の御父に向 かい、詩編の一つを選んで使われま した $^{1}$ 。 それはヘブライ人の家族の 主要な祈りで、聖母と聖ヨセフも深 い信心を注いだに違いなく、イエス は両親から教えてもらい、暗記して 自分のものにされました。そして、 ご自分の祈りにするにあたり十全な 意味をお与えになったので、それは 教会が毎日使う、司祭が全教会の名 において日々神に向ける祈り - 時課 の祈り - の主な部分を占めていま す。

教会の教父たちと著述家たちは、詩 編2を救い主に関する詩編の一つと 考え、繰り返し解説してきました 2。また多くの信者の信心を深める のに役立ってきました。初代キリス ト信者は逆境の最中、勇気を見出す ためにそれに頼りました。使徒言行 録にはその証拠があります。 ペトロ とヨハネは、神殿の入り口で施しを 乞うていた足の不自由な人をイエス の名において癒したので、衆議所の 前に連れて行かれました<sup>3</sup>。使徒た ちは奇跡的に釈放されると、他のキ リスト者に再会するために戻り、キ リストの王位を賛美するこの詩編、 心に留められていた主への祈りを、 皆で一緒に唱えました。これが彼ら の祈りです。「主よ、あなたは天と 地と海と、また、そこにあるすべて のものを創られた方です。あなたの 僕であり、また、わたしたちの父で あるダビデの口を通し、あなたは聖 霊によってこうお告げになりまし た。なぜ異邦人は騒ぎ立ち、諸国の

民はむなしいことを企てるのか。地上の王たちはこぞって立ち上がり、 指導者たちは団結して、主とそのメ シアに逆らう|<sup>4</sup>。

当時の状況を眺めながら詩編作者が 神に向けた言葉は預言的な言葉で、 使徒たちの時代に実現しましたが、 その後も、教会を通して私たちの時 代にも実現しています。なぜ異邦人 は罵ったのか?また、人々はつまら ないことを思うのか? なぜそれほど の憎悪と悪があるのか? 原罪の瞬間 からこの戦いは決して消えることが ありませんでした。この世の力は神 と神から出るすべてものに対抗して 結集しました。人間の尊厳が、非常 に多くの所で、徹底的に踏みつけら れていること、中傷、悪口、悪に奉 仕する強力なマスメディア、莫大な 数の堕胎、教会、教皇、また、信仰 に忠実でありたいと思うすべての 人々に対する大変多くの攻撃につい

ての証言が有り余るほどあるので す。

けれども、神はそれにも増して強い お方です。神は岩ですから5。 その 日、エルサレムでペトロ、ヨハネと 彼らに一致した人々が戻ったのは神 のところでした。それからというも の、彼らは救いの言葉を100%の自 信を持って説くことができました。 聖ルカは、彼らが祈りを終えた時、 すべての人が強められたと感じ、 皆、聖霊に満たされて大胆に神のみ 言葉を語ったと書いています<sup>6</sup>。 こ の詩編を黙想すれば、神の教えとは 非常にかけ離れた環境で生じるよう な障害に直面する時でも、私たちは 強くなることができます。私たちは そこに神の子であることの意味と、 どこででもキリストの王位を宣言す ることの喜びを見出すことができま す。

5 6. 2 世の中における神の拒絶

「我らは、枷をはずし、縄を切って 投げ捨てよう | と彼らは言いました ′。 一般的な騒ぎは繰り返されるよ うです。快いくびきを外し、聖性と 正義、恩恵、愛、平和という素晴ら しい荷、キリストの荷を捨て去るの です。人々は愛を見て腹を立て、ご 自分を守るために天使の軍勢をお呼 びになることも敢えてなさらず、全 然逆らおうともされない神の優しさ を嘲笑うのです(ヨハネ18・36参 照) 8。しかし、天を王座とする方 は笑い、主は彼らを嘲り、憤って、 恐怖に落とし、怒って彼らに宣言さ れる。神の罰は現世においてのみ 与えられるのではありません。神の 敵として、振舞ったり自らをうわべ だけであれ勝利者だと宣言したりす る人々がいますが、彼らの最大の失 敗は、もし悔い改めなければ真の幸 福を決して理解せず、獲得しないこ とにあります。彼らの人間として の、また、人間以下の満足は、この 世で実現できたはずの良いことに対

する悲しくも苦々しい報いになるでしょう。そのために、ある聖人たちは、地獄への道はすでに地獄であると断言しています。しかし、それにもかかわらず、主はいつも彼らを赦し、真の平和と喜びを与えようとされているのです。

詩編のこの詩を評して、聖アウグスに チヌスは、神の怒りは、を苦しると 神の掟をはねつける人々を苦しるは 精神的な盲目というま惨なはで生きるという悲惨なじて生きるとがで良しと肯定い の生涯を虚したりすることに 不幸なことはありません。

それでもなお、多くの恥辱にもかかわらず、神は忍耐強い。「神はすべての人が救われることを望んでおられます」 $\frac{11}{2}$ 。詩編が述べている神の怒りは、激怒ではなく、父親が子

に、医者が病人に、先生が弟子に向ける必要な矯正なのです<sup>12</sup>。しかし、たとえそうであっても神の憐れみを利用する時には限界があります。誰も働くことのできない夜が訪れるからです。<sup>13</sup>死によって悔い改めの可能性は終わります。

教皇聖ヨハネ・パウロII世は、神の 憐れみを拒むことは私たちの時代の 著しい特徴であると指摘しました。 私たちの心を絶えず改心させ、主に 懇願し、このように広くはびこった 反抗の理由を主に問うように促すの は、この非常に悲しむべき現実なの です。わかってはいても、なお神の 憐れみと罪の赦しから自分を閉ざす 群衆のあわれな光景があります。彼 らはこういうことは人の一生にとっ て本質的なものではない、重要なも のではないと考えています。それは 自由に選んで決めたとして表現され るかも知れない精神の状態で、心の 頑固さ、つまり聖書が「かたい心」

と呼ぶものです。今日において、精 神と心のこの状態は、おそらく罪の 意識の著しい喪失に反映されるで しょう<sup>14</sup>。 キリストの近くで従いた いと望む人々は、同時代の多くの 人々が神をひどく拒むことに対し て、償いをする義務があります。そ して、私たちは溢れるほどの恩恵と 憐れみを願わなければなりません。 神の情けが枯渇することのないよう に願いましょう。というのも、そう することが多くの人々にとって、救 いのための他の助けをことごとく拒 んだ後の最後の命綱、溺れている人 がつかもうとする唯一の残されたも のですから、

56.3神との父子(おやこ)関係

人間の自由は悪の謎にかかわって引き起こされます。創造物の反抗という深い問題に、詩編2は、キリストの王位とあるはずの悪に勝る支配をはっきりと述べて解決を与えていま

す。「『聖なる山シオンで、わたし は自ら、王を即位させた』。主の定 められたところに従ってわたしは述 べよう。主はわたしに告げられた。 『おまえはわたしの子、今日、わた しはお前を生んだ』| 15。 父なる神 はお優しいので、御子を王としてお 与えになるのです。神は脅すと、優 しくなられ、怒りをお告げになる と、愛をお与えになります。「おま えはわたしの子し、これはキリスト に、そして、私たちが「もう一人の キリスト、キリスト自身」になる決 心をすれば、あなたとわたしに向 かって語られる言葉です。

神の善に動かされた心ほど、み言葉が深く染み入るものはありません。神は私たちに言われます。「お前はわたしの子」、多くの人がすでにそうであるように、見知らぬ人ではなく、持遇の良い召使ではなく、友ではなく、子です!<sup>16</sup>ここに私たちの避難所があります。つまり、神の子

であることです! ここに私たちは逆境に直面した時、必要な勇気を見出します。その逆境とは、主が私たちの信仰と愛と勇気を再び堅固にするためにお許しになる誘惑と同様に、時々キリスト者の生活に敵対する環境で見られるものです。

神である御父をいつも私たちのすぐがある御父をいつも私たちのすがでれて見出します。神の現存やからは、かなきでいるにいるではない、広がるの外でも、できずいの内奥同様、その外でもでものがでも、群衆の中でも同じでものがは、考慮に入れるのをはいいないは、考慮に入れるのをはいるがは、考慮に入れるのをはいるがは、考慮に入れるのをはいるがは、考慮に入れるのをはいるがは、考慮に入れるのをはいるがは、考慮に入れるのをはいるがは、考慮に入れるのをはいるがは、考慮に入れるのをはいるがある。

「求めよ。わたしは国々をお前の嗣業とし、地の果てまで、お前の領土とする」<sup>18</sup>。日々、主は言われます。「求めなさい。特に拝領後の感謝の時に求めなさい」。イエスは私

たちを招いておられます。イエスの 望みはご自身を私たちに与えること です。また、私たちがイエスに自分 自身を与えることです。

聖ヨハネ・クリゾストモは詩編の言葉を評して、私たちに約束されたものは、もはや乳と蜜で溢れる土地、長寿と多くの子どもたちと、小天天の群れではなく、大だの良いもの、神の子である主と兄弟である主と大きの子である主と共に治めると、お遠に主と共に治めることだと教えています」。

「『お前は鉄の杖で彼らを打ち、陶工が器を砕くように砕く』。すべての王よ、今や目覚めよ。地を治める者よ、諭しを受けよ。畏れ敬って、主に仕え、おののきつつ、喜び躍れ」 $^{20}$ 。キリストは今も永遠も勝利を得ておられます。十字架上の死によって、イエスは私たちのために生

詩編は、私たちが主の道に沿い、 に信頼して、忠実であるようにといい。 であるようにといいます。「で終わっています。」 で終わっていまのはない。 ではたこである、ないだにしている。 でが遅れ、道を失うことはないない。 がるとまたたとかではないない。 はまななはずでといる。 はないないないではないないではないない。 はないないでででである。 はないないではないないではないないではないない。 はないないではないないではないではないではないではないない。 はないないではないではないではないではないである。 に、ころとはすべての信頼を主に置きましていたない。 た。神に忠実なしもべである聖なる 守護の天使に、日々、さらに優れた 忠実と大きな愛をもって召命を生 き、私たちが呼ばれたひとり子の王 国に奉仕するよう助けてくださいと 願います。

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> マタイ27:46参照

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> I. ドミンゲス, 『詩編2: 王の中の 王である主』, マドリード, 197 7参照

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> 使徒言行録 4 : 2 3 - 3 1

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> 使徒言行録 4 : 2 3 - 2 6 参照

<sup>5 1</sup>コリント10:4

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> 使徒言行録 4 : 2 9 - 3 1 参照

<sup>&</sup>lt;sup>7</sup> 詩編 2 : 3

<sup>&</sup>lt;sup>®</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, 『知識の香』185

- 9 詩編,2:4-5
- 10 聖アウグスチヌス, Commentaries on the Psalms, 2: 4 参照
- <sup>11</sup> 1 テモテ 2 : 4
- <sup>12</sup> St Jerome, Breviarium in Psalmos, II
- 13 ヨハネ9:4
- 14 聖ヨハネ・パウロII世, Encydlical, Dominum et Vivificantem, 18 May 1986, 46-
- 15 詩編2:6-7
- <sup>16</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, loc cit
- $\frac{17}{2}$  M.Eguibar, Why do the gentiles rage? (Psalm 2), pp. 27 28

- 18 詩編2:8
- 19 聖ヨハネ・クリゾストモ, Homilies on St Matthew's Gospel, 16:5 参照
- 20 詩編2:9-11
- <sup>21</sup> 聖アタナシウス, Commentary on the Psalms, 2:6
- 22 詩編2:12

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VII-ka/ (2025/12/16)